

# 新計画策定のためのブロック意見聴取会開催報告

---

国 土 交 通 省  
土 地 ・ 建 設 産 業 局  
建 設 市 場 整 備 課

# 新計画策定のための意見聴取会について

- 建設業における女性活躍の機運をさらに高め、**建設業界が自立的・継続的に女性活躍の取組ができる**環境を整備するため、各ブロックでの意見聴取会を開催。
- 今後、各地で自立的・継続的な取組を促すため、建設5団体や女性活躍推進ネットワークが推薦する各地の女性の他、女性活躍に取組む**建設業協会や自治体等**のメンバーをバランス良く配置。

## ブロック意見聴取会（事務局 建設業振興基金）

### ○構成メンバー（15名程）

- ・建設5団体が推薦する女性技術者・技能者  
または、女性技術者・技能者を雇用する経営者
- ・建設産業女性活躍推進ネットワークが推薦する者
- ・経営者
- ・地方自治体（都道府県）
- ・建設業協会事務局

### ○オブザーバー

- ・国交省本省（1名）
- ・地方整備局等担当者（1名以上）

### ○意見聴取会の内容

- ・これまでの女性活躍の取組説明
- ・意見交換  
第1回策定委員会での現計画の成果と課題について説明。  
参加者それぞれの立場で現計画の課題等について意見交換を  
するとともに、課題解決のための方策などについても議論。



### スケジュール

|          |            |
|----------|------------|
| 7月10日（水） | 北 陸（新潟市）   |
| 12日（金）   | 関 東（さいたま市） |
| 17日（水）   | 中 部（名古屋市）  |
| 19日（金）   | 中 国（広島市）   |
| 22日（月）   | 九 州（福岡市）   |
| 24日（水）   | 東 北（仙台市）   |
| 26日（金）   | 北海道（札幌市）   |
| 29日（月）   | 四 国（高松市）   |
| 31日（水）   | 近 畿（大阪市）   |
| 8月 2日（金） | 沖 縄（那覇市）   |

# 意見聴取会での主な意見①

## 働きつづけられるための環境整備

- 子育てに加え、介護も大きな課題となってくる。子育ての負担は女性の比重が大きい面があるが、親の介護は男女同じ。働き方改革が必要。
- 休みが少なく、残業も多い。子育て、家庭との両立は正直困難。
- 育児休暇・時短勤務等の制度面のサポートを増やしてほしい。
- 女性の登用の問題。育休、産休をとると必ず遅れてしまう。  
フレックスタイム制度、週休2日制、勤務時間の検討はまだまだと感じる。
- 始業と終業時間などを業界全体で見直すべき。
- 子どもを保育園に預けているが、現場が朝は早くて帰りは遅く、勤務時間を考えてほしい。  
出勤時間の調整や、託児所を整備してくれたら。
- 小学1～2年生の小児保育が無く、預け先に困っている。
- 男性の育休取得率は低く、男性にも育休を取得しやすい環境整備が必要。
- 育児は女性だけが取り組むものではない。男性の理解が不足している。
- 女性の活躍には家庭と社会、そして企業の環境改善が必要。

## 意見聴取会での主な意見②

### 働きつづけられるための環境整備

- 直上の上司の理解が重要。女性を一人にせず、コミュニケーションを大切に。女性の性（生理等）についての理解も上司としては必要。
- 女性が建設業の現場で働くためには経営者の意識改革が必要。
- 育児休業後の復職の障害は、男性社員の「女性は良いよな」というような目線。子供の関係で早退遅出となると周りの男性の目が厳しい。
- 女性技能者が現場で相談相手がなくて辞めてしまった。身近にロールモデルがおらず、キャリアパスが見えない。
- 建設キャリアアップシステムは技能が蓄積されるシステムであることから、まさに産休・育休等で復職する際に活用できるシステムではないか。
- 復職の際に訓練を行う制度も必要。
- 公共工事では快適トイレの設置原則化などの取組が行われているが、民間工事の女性専用の設備は不十分。
- トイレの問題は、現場の規模、発注者によって格差が大きすぎる。
- 快適トイレの配置に思いが至らないなど不十分な面がある。トイレということで何も考えず男性用の横に並べて置かれる。トイレも更衣室も男性用と離れた方が良い。

# 意見聴取会での主な意見③

## 入職促進について（女性に選ばれる産業を目指す）

- 女性の建設業入職を考えるのであれば、イメージアップやPRが不足している。
- 建設業入職にあたり親の理解が壁だった。進路を選択をする上で学校の先生の理解を深めることも重要。
- 中学校に出前講座をしたが、建設業での女性の活躍が認知されていない。活躍を知っていただくことが必要。
- もっと専門職種が認知されるべき。モノづくりに興味がある女性は決して少なくない。発信の仕方を考えてほしい。
- 女子学生の説明会では、男性社会で大変では無いかと聞かれ続けている。学生には建設業が変わっていることが全く届いていないのではないか。働き方改革や生産性向上などの取り組みを学生にもっと伝えるべき。
- 建設業の魅力ややりがい、女性が活躍していること等の正しいイメージを定着させることが必要。
- 工業高校などでは女性が働いていることに驚かれる。女性が働いている、設備や制度を整備していることは、求人の際にもプラスになっている。
- 工具や作業着なども男性が基準ではなく、女性向けのものを開発していただくと有り難い。

## 意見聴取会での主な意見④

### 建設産業で働く女性を応援する取り組み（女性活躍推進）を全国に根付かせる

- 女性が活躍する場はある。見つけられないのは環境や意識の問題だと思う。  
まだ職人まで意識が行きわたっていない。業界全体で意識を高めることが必要。
- 計画策定は良いが、男性に伝わっていない（知られていない）。
- 女性活躍については、会社に1人しか女性がいないということも多く、女性活躍推進ネットワークの場を活用してみてもどうか。
- 横の繋がりなど、情報共有をしていくためには、ネットワークは大切だと思う。
- 女性が少ない中で、普段の悩み等を話せる交流の場があればいいと思う。

### その他（女性活躍全般の意見）

- 現場では女性は珍しく、配慮といっても特別な扱いを受けているような感じ。  
女性だからと構えるのではなく同様に扱ってほしい。
- 建設業は男性社会だという先入観が無くなれば良い
- 先入観（結婚・出産によって辞める、休む等）を取り除かないと行けない。